立川市民オペラ公演2020
ジャコモ・プッチーニ作曲　歌劇「トゥーランドット」
公演日　令和2年3月21日(土)、22日(日)

立川市民オペラ通信
第10号
2020年2月 発行
立川市民オペラの会
〒190-0022
立川市錦町3-3-20
たましんRISURUホール
(公財)立川市地域
文化振興財団 内
TEL042-526-1312
FAX042-525-6581

いよいよ開幕の時が来ました。皆様のご来場を楽しみにお待ちしております。

〈立川市民オペラ合唱団より〉

立川のオリジナルウェアは、合唱団員のUさんがデザイン・制作をしてくれています。今年もトゥーランドットのデザインで作りました。揃いの服を着て、皆でいい舞台になるように頑張っています。

いよいよソリストの皆さんとの合同稽古が始まりました。本番の舞台イメージが膨らみつつあります。場見りテープを目当てに、階段などを思い描いています。家でも動き（例えば立つ、座る、手を上げるなど）をシミュレーションしながら自主練習しています。演技が完全に頭に入るまでには、まだまだ努力が必要です。大ホールでも何度か稽古が出来るので、舞台をより具体的に感じられるはずです。オケ合わせ、衣装合わせなどをして、いよいよ3月の本番を迎えます。

〈立川管弦楽団より〉

いよいよ3月に迫った公演に向けて、管弦楽の練習も佳境を迎えております。

２０１２年以来２回目の演奏となるトゥーランドットは、管弦楽においても優れた音楽的表現と壮大なスケールを備え、見るもの聴くものを魅了し圧倒する旋律が随所に散りばめられた名作オペラです。

演奏に際しては奏者に求められる技量も高く、公演に向けて団員の練習にも熱が入っております。また今回は国立音楽大学や立川市吹奏楽団の強力なサポートのもと、公演の成功に向け日々練習に励んでおります。

どのような舞台が繰り広げられるか、３月公演をどうぞお楽しみに。

トゥーランドット・ カラフ 役　の皆様からコメントを頂きました!!

① 歌劇「トゥーランドット」の中で好きなシーン、その理由と見どころを教えて下さい。
② ご自身の役への意気込みをお願いいたします！

21日(土)

鈴木 麻里子

①謎をことごとく打破されたトゥーランドット姫が、父皇帝に「私は結婚などしたくない」と懇願するシーンが好きです。非業の死を遂げた祖先ロウ・リン姫の生まれ変わりと信じている姫は氷のような心を持ち、いかなる男性にも心を開かない。常に高圧的で勝ち誇っている姫が父に対し駄々をこねているような弱さや柔らかい音楽が気に入っています。

②ソプラノの中でも難役の一つと言われているトゥーランドット姫を、まさか歌える日が来るなんて夢のようです。分厚い管弦楽の響きや合唱に負けない逞しい声が求められますが、愛を知らない孤高の存在、一人の女性としての心の葛藤が表現できる様に稽古を積んでいきたいです。圧倒的な存在感を放てるように努めていきたいと思います。

青柳 素晴

①3幕、リューが死んでから運びだされるまでのシーンが好きです。こんなに美しく切なく悲しみに満ちた音楽は、ほかにはなかなか無いと思うからです。リューの死を嘆くティムールの姿が涙を誘います。プッチーニはここまでを作曲して亡くなっていますが、自分の死を自分自身で美しく彩ったように思えてなりません。

②この役を初めてやらせて頂いたのは20代の後半でした。その頃は「誰も寝てはならぬ」の最後の高音を失敗するのが恐ろしく、演出家に「ビビるな！」と怒られたのをよく覚えています。
あれから20数年がたちました。自分自身がどれくらい成長出来たのか？この自分への問いかけに対して最高の答えを出したいと思います。

22日(日)

山口 安紀子

①謎解きのシーンが好きです。トゥーランドット姫は初めは威厳・自信に満ちており、「外国人よ、聞け！」と強く言い放つところから始まりますが、王子(カラフ)が次々と謎を解くにつれて、民衆は大いに盛り上がり、対照的に姫が一人孤独に落ちていく様が哀れで、姫の内面の揺れる心や人間的な部分はこの作品の見どころの一つだと思います。

②トゥーランドット姫はタイトルロールにして、歌い始めるのがオペラの半分を過ぎてからという特殊な役柄で、厚いオーケストラの中で壮大なアリア等を歌う難役ですが、歌唱の充実はもちろんのこと、高慢で冷酷な姫というよりも、高貴で純粋無垢な姫が初めての愛を知る、ということが伝わるように演じたいです。集中して、精一杯頑張ります。

福井　敬

①先ずは1幕フィナーレ。ティムール、リュー、カラフそれぞれの想いから、カラフによって銅鑼が鳴り渡るあのクライマックスは、毎回、血湧き肉踊ります！もう一つは、3幕でカラフからの“Un Bacio”を受けた後の、トゥーランドットの涙語りです。本当はプッチーニが一番書きたかった場面だったのでは？歌詞だけ残して彼は亡くなってしまいました。

②カラフは何故放浪の旅に出ていたのか？いつもこのオペラを演じる度に、その事が頭の中を巡ります。彼はおそらく、究極の美を求めて旅していたのではないか？そしてトゥーランドットという究極の〝美〟をそこに見いだしたのでは…。
さあ、皆さんも探しに行きましょう！

「立川市民オペラ」で検索！　【HP】 https://tachikawaoperaassociation.jimdo.com/
【Facebook】https://www.facebook.com/tachikawacitizenopera/　Eメール opera@tachikawa-chiikibunka.or.jp（事務局）